

令和3年を振り返る

前年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で不自由な生活を強いられた一方で、そうした状況下でも工夫を凝らした、今までに無いさまざまな催しが行われるなど、明るい話題もある1年でした。

※内容は、12月15日現在で作成しています。



1月

1日 約400人が初日の出を見るため地球岬展望台を訪れたが、厚い雲に覆われご来光を拝むことはできなかった。 **1**

10日 室ガス文化センターで成人祭が行われた。新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しながらの開催となったが、参加した初人の新成人は恩師からのビデオメッセージや、旧友との再会を楽しんだ。 **2**

2月

5日 新型コロナウイルス感染拡大で延期となっていた開校記念式典が天神小学校で行われ、新たな校章と校歌が披露された。

6日 天沢小学校で閉校式が行われた。

6日 全編室蘭市内で撮影した映画「モルセラの霧の中」が、東京の岩波ホールで公開。4月には室蘭ディノスでも公開された。好評のため公開期間が延長され、多くの観客を魅了した。

21日 室蘭工業大学と大阪府立大学が共同開発した、超小型人工衛星「ひろがり」がアメリカからの打ち上げに成功し、国際宇宙ステーションに運ばれた。その後宇宙空間へ放出され、4月には宇宙空間でのパネルの展開にも成功した。



1



2



3

3月

7日 日本製鉄室蘭製鉄所のアイスホッケー部「室蘭スティーラーズ」が、第55回全日本アイスホッケー選手権大会Bで優勝した。

20日 地域に元気を与えようと「DRIVE IN 室蘭花火大会」が道の駅「みたら室蘭」周辺で開催された。音楽に連動した花火を車中から観覧するという初めてのイベントは、多くの来場者を明るく照らしていた。 **3**

31日 建て替えに伴い、青少年科学館と図書館本館が閉館。半世紀以上の歴史に幕を閉じた。 **4** **5**

4月

1日 白鳥台集会所とイタンキ生活館がリニューアルオープンした。

24日 医療従事者を対象とした、新型コロナウイルスワクチンの集団接種が始まった。26日からは、65歳以上の高齢者施設入所者への接種も始まった。 **6**

5月

13日 市民活動センターの来館者が10万人到達。10万人目となった来館者には記念品が贈られた。

31日 脱炭素社会の実現に向け、市内外の企業や団体が構成される「室蘭脱炭素社会創造協議会」が設立された。

6月

16日 室蘭開発建設部と室蘭観光推進連絡協議会が、白鳥大橋の道路設備利用に関する協定を締結し、7月22日からは白鳥大橋主塔登頂クルーズが始まった。参加者は、海拔100メートル地点の主塔から絶景を満喫した。7

7月

3日 にぎわい創出の実証事業として、中央町の市有地に「たのしま横丁」がオープンした。8

5日 道南バスが、運行情報をスマートフォンなどで確認できるバスロケーションシステムの運用を開始した。

8月

1日 撮りフェスin室蘭が開催。緊急事態宣言の発出により、9月30日までの期間が10月31日まで延長された。

10日 台風から変わった温帯低気圧による大雨のため、3時間当たりの降水量が79ミリメートルとなり、観測史上1位を記録した。

16日 市民の健康増進のため、「LINE」を利用した「くじらん健康ポイント」がスタートした。

9月

16日 全国高校総合体育大会女子サッカー競技大会を、令和6・7年に室蘭市と伊達市で開催することが決定した。

19日 室蘭工業大学内に、学生や地域住民などが交流できるカフェ「TEN-TO」がオープンした。



4



5



8



6



7



9

10月

5日 測量山ライトアップが連続点灯1万2千日を達成。

25日 2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す、「ゼロカーボンシティ」を宣言した。

29日 「撮りフェスin室蘭」が、スポーツ文化ツーリズムアワード2021で日本遺産ツーリズム賞を受賞した。

11月

8日 AIを使った予約制の乗り合いタクシー運行の実証事業「ちよい乗り白鳥台」が、白鳥台地区で12月3日まで行われた。

10日 五洋建設が崎守町に、水素を含む再生可能エネルギーを利用した新工場の建設を発表した。

11日 開港150年・市制施行100年をきっかけに作成されたブランドマークが決定。白鳥大橋や室蘭やきとり、地球岬を圖案化したマークが披露された。

17日 大成建設と室蘭市が、浮体式洋上風力発電関連技術に係る包括連携協定を締結した。

12月

12日 冬季休館中の水族館で「冬&夜の水族館」が、初めて開催された。9

令和4年は、開港150年・市制施行100年の記念の年となります。まちが盛り上がり、活気があふれる一年にしたいですね。

